JDBAインフォメーション

協会からのお知らせ

2018年全国大会結果

第27回 春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会

開催日：2018年3月25日
開催場所：三重県津市、津市産業・スポーツセンター「サオリーナ」
優　勝：ガッツクラブ
準優勝：板橋ファイヤーズ
第3位：SG Special
第3位：上溝スーパーファイターズ

スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

第28回 全日本ドッジボール選手権全国大会

開催日：2018年8月12日
開催場所：群馬県前橋市、「ALSOKぐんまアリーナ」
優　勝：菅原ダイナマイトハリケーン
準優勝：隼Eight
第3位：SONIC
第3位：Genki Kids

2018 J.D.B.A. 全日本選手権全国大会

開催日：2018年10月14日
開催場所：静岡県静岡市、草薙総合運動場「このはなアリーナ」
優　勝：Vegaes O³
準優勝：FALCONPAPAS
第3位：southern'97
第3位：S.Oパトリオッツ

第5回 全日本女子総合選手権全国大会〈D-1G〉

開催日：2018年12月16日
開催場所：福岡県北九州市、「北九州市立総合体育館」
優　勝：MITO GIRLS D・B
準優勝：ヨコスカDCK
第3位：レッドスターズ福岡Ver.G
第3位：LUPINUS

第5回 全日本女子総合選手権全国大会〈シニア〉

開催日：2018年12月16日
開催場所：福岡県北九州市、「北九州市立総合体育館」
優　勝：のーてんき
準優勝：HOLICK
第3位：Potential
第3位：BUCKS

●「第4回アジアカップ」大会結果

	Men	Wemen	U-12 Girls	U-12 Boys
1位	日本	日本	日本	韓国B
2位	台湾	台湾	台湾	台湾
3位	香港	韓国	韓国	韓国A
4位	韓国	香港	香港	香港

開催日：2018年10月20～21日
開催場所：韓国全羅南道長興郡
＊日本は参加した3カテゴリー全てで優勝しました。

大会開催速報！

「第28回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会」を3月24日(日)、三重県津市の津市産業・スポーツセンター「サオリーナ」にて開催します。
※スポーツ振興基金助成事業

2019年度大会開催予定

2019年度大会、講習会の予定をお知らせします。

大　会	夏　小	全日本	女子総合	春　小
日　程	2019. 8.18(日)	2019. 10.20(日)	2019. 12.01(日)	2020. 3.29(日)
場　所	茨城県 水戸市	静岡県 静岡市	愛知県 豊田市	広島県 広島市
体育館	アダストリア みとアリーナ	このはな アリーナ	スカイホール 豊田	広島グリーン アリーナ

- 8月16～17日
  WDA審判講習会(マルチボールの審判認定会)、水戸市　※スポーツ振興くじ助成事業予定
- 10月26～27日
  WDA/ADF(マルチボールアジア予選)、香港
  ※スポーツ振興基金助成事業予定

公認審判員の更新料を変更

2019年度から公認審判員の更新料が変更になります。詳しくは、同封の「更新のお手続きに関するお知らせ」をご参照ください。

- **公認審判員A級**
  10,000円(個人会費1,000円＋更新料9,000円)
- **公認審判員B級**
  8,000円(個人会費1,000円＋更新料7,000円)
- **公認審判員C級**
  6,000円(個人会費1,000円＋更新料5,000円)

その他の資格更新料は変更ありません。

なお、「更新のお手続きに関するお知らせ」紛失の際の再発行・払込票の再送付は行いません。また、期間内に更新登録が完了できない場合は、資格失効となりますのでご注意ください。

一般・中高生競技者の新規登録も4月1日より開始します。

マルチボール(ADF)アジア予選 in Hong Kong 日本代表選手募集中

3月1日より、「日本ドッジボール協会」トップページ、および「日本代表」ページから、2019年度の日本代表選手選考用申し込みフォームを開設します。「われこそはトップアスリート！」「われこそは国際人！」という意気込みや熱意のある方、大歓迎です。代表選手は書類選考・選考合宿などを通じて決定します。ぜひご応募ください。

スポーツ・フォー・トゥモローに加入

スポーツ・フォー・トゥモロー、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに、官民連携のもと、開発途上国を中心とした100カ国・1,000万人以上を対象に推進されるスポーツ国際貢献事業」に、一般財団法人日本ドッジボール協会も加入しました。2018年6月には、エチオピアにてJICA主導の下で行われたドッジボール大会へ用具・情報の面で協力しました。2019年度も引き続き日本発祥でシングルボールのドッジボールを世界に普及していきます。

日本ドッジボール協会 ㊙ 公式まんじゅう発売開始

協会の公式まんじゅうを、3月24日、三重県津市の津市産業・スポーツセンター「サオリーナ」で開催する春の全国大会で新発売します。もちろんドッジくん記念マーク付き！全国大会のお土産にぜひお買い求めください。

一般財団法人日本ドッジボール協会
https://www.dodgeball.or.jp
〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405
TEL.03-5776-1830　FAX.03-5776-1840

スポーツくじ toto BIG

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

J.D.B.A. JAPAN DODGE BALL ASSOCIATION
ドッジボールニュース
Vol. 9 2019.03

フレッシュ!! 新B級審判員ご紹介

皆さん、コートでお目にかかりましょう!

夢は審判員の父と共に踏むカラーコート

宮崎 耀 You Miyazaki
所　属：長崎県ドッジボール協会
年　齢：20歳(大学2年生)
血液型：B型
好きな食べ物：焼き鳥、お好み焼き

8年前、ドッジボールが大好きで、ドッジボールに携わっていたくて、ジュニア審判員として第2のドッジボール人生のスタートを切りました。審判員として、黄色いボールを追いかける選手たちの真剣な眼を見ると、昔の自分たちを見てるような気持ちになります。

私には大きな夢があります。それは私のドッジボールの原点であり、憧れの審判員である父親と共にカラーコートを踏むことです。選手としては共に立てなかった憧れの舞台に立つには、今より2倍も3倍もの努力が必要だと思っています。これからも若者らしくフレッシュに、はつらつと審判活動に励むとともに、父の背中を追い続けます。

最後に、今後のドッジボールの発展には「若い力」が必要だと考えています。大人になっても、選手として盛り上げていくことの他に、審判員としてドッジボーラーをアシストしていくこともドッジボールの発展のために大切なことだと思っています。

これを見て、少しでも多くの人たちが審判員としてコートに立ってくれることを願っています。

目指すのは存在感のある審判員

中根 有里 Yuri Nakane
所　属：愛知県ドッジボール協会
年　齢：20歳(大学2年生)
血液型：O型
好きな食べ物：野菜、肉

私は審判員になる前はプレイヤーとしてドッジボールに関わっていました。初めてA級審判員を見て、「かっこいいな」と小学生の頃から憧れを抱いていました。その頃、私の両親が審判員をしていたということもあり、プレイヤー引退後、A級審判員への憧れと両親の影響から審判員になりました。単純なきっかけで始めた審判員ですが、今では真剣に審判と向き合っており、当時よりも審判員に対する気持ちが強くなりました。そして多くの審判員に出会い、そのたびにもっと自分を高めていかなければと、刺激を頂いています。

先輩審判員の中には、私のようにプレイヤー経験者の方もいらっしゃいます。そして、さまざまな場面で活躍されています。私もそのような方々を追いかけて、今度は私の審判姿を見て、今いるプレイヤーが審判員を目指すきっかけにしてもらえるよう頑張ります。

また、私は存在感のある審判員を目指しています。女性だけれども、体が小さいけれども、そんなことを感じさせない審判員になりたいです。

B級審判員になることができましたが、現状に満足せず、日々努力し審判員としての自分を成長させていきます。

指導委員会より

ベンチ入りチーム役員の資格・配置人数を変更

指導委員会指導委員長
岩見 喜市

(公財)日本スポーツ協会加盟により2014年からスタートした公認指導者講習会。指導者としての理念や心構え、正しい知識や技能を習得するとともに、ドッジボールを普及する役割を担うことで地域社会において信頼される指導者の養成を目的として始まりました。これまでに講習会を受講し、公認指導者資格を取得した登録者は 2,800名を超えています。

ここで2019年度のからの変更点をお知らせします。2019年度からベンチ入りチーム役員は、JDBA公認指導者(準指導員区分Ⅰ・区分Ⅱ、指導員)資格を有する者となり、必要となる配置人数は大会によって異なります。

- ベンチ入り役員全員が有資格者の大会：
  夏、春の小学生全国大会(D-1)、全日本女子総合選手権(D-1G)、および上記大会への出場権獲得を目指す予選会
- ベンチ入り役員1名以上が有資格者の大会：
  シニア選手の全国大会「全日本選手権」「全日本女子総合選手権(シニア女子)」、およびその予選会となる「シニアチャンピオンシップ」

2019年度全国大会(およびその予選会)	カテゴリー	ベンチ入り役員(指導員配置人数)
第29回全日本ドッジボール選手権全国大会	D-1	全員
2019J.D.B.A.全日本選手権	シニア(混合)	1名以上
第6回全日本女子総合選手権全国大会	シニア(女子)	1名以上
	D-1G	全員
第29回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	D-1	全員

更新講習会については、2018年度から実施しています。

2019年度も、JDBA指導委員会、加盟団体が主催する更新講習会を計画的に開催します。他に、スポーツ協会主催の更新講習会も認められますので、関係機関に確認し受講してください。また、2016年までに登録し今後も指導者として継続的な活動を希望する方は、2020年2月末までに更新講習会を受講し、更新の手続きをしていただくことになります。期限切れのないようにご注意ください。さらに、今年度よりJDBA指導委員会、加盟団体が主催する更新講習会では、必修カリキュラムを設け、指導者としての正しい知識や技能の習得、指導技術向上などを目指していきます。

なお、指導者資格についての詳細は日本協会HP(https://www.dodgeball.or.jp/指導者-審判/公認指導者講習会/)をご覧ください。

指導委員会では、これからも指導者の指導技術向上を目指し取り組んでいきます。チームに関わる指導者、保護者の皆さま、公認指導者として他のスポーツとの共通点を学び、また運動機能を正しく理解し、未来をひらく子どもたちのために私たちと共に歩んでいきましょう。

ドッジボールの国際化を見据え、国際試合に参加

アジアから世界へ、そして未来へ

JDBA副理事長 長谷川 満也

ADC主催「第4回アジアカップ」

去る2018年10月20、21日、ADC（アジア連盟）主催の「第4回アジアカップ」が韓国・釜山郊外で、日本、韓国、台湾、香港の4カ国が集い開催されました。日本はU-12女子、O-13男子・女子の3カテゴリーに参加。中部国際、関西、福岡の各空港からそれぞれ出発し、選手・スタッフ・応援団・審判員の総勢約100名が釜山空港で合流して結団式を実施し、必勝を誓ったのでした。初日に総当たり予選リーグが行われ、日本は各カテゴリー全勝で2日目の決勝戦に進出、相手はいずれも強敵の台湾です。苦しい場面もありましたが、個々の力、ベンチワークによる多彩な攻撃、そして素晴らしい応援団の声援により、全カテゴリー連覇を果たし、アジア絶対王者の地位を守りました。また、競技運営でも日本人審判員が核となり大会を盛り上げました。大きなけがや病気もなく、総員無事に優勝旗と共に帰国。今回で4カ国全てでの開催が終わり、各国がそれぞれの責任を果たしたことになります。今後については未定ですが、国際交流の場として新たな展開が期待されるところです。

スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

WDA主催「2018 Dodgeball World Cup」

さて、日付はさかのぼって8月3、4日。WDA（世界協会）主催の「2018 Dodgeball World Cup」が、各大陸予選に34カ国チームが参加し、各カテゴリー上位12カ国がニューヨーク本選に出場し開催されました。日本はアジア予選マレーシア大会で4位となり、惜しくも本選への出場はかないませんでしたが、招待枠リーグへの参戦を要請され、男6・女2の計8名でMen、Mixカテゴリーに参加しました。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、世界のドッジボールは5ボールゲームが主流です。対戦人数は6名対6名。コートは17m×8m。外野の概念はありません。両チームが正対し、ボールをぶつけ合います。アタックが成功すればアウトになった選手はコート外に出ます。このゲームの醍醐味はアタックのキャッチ。アタックをキャッチするとアタックした選手がアウトになります。なおかつキャッチした側の選手1名がプレイフィールドに復帰することができます。試合時間は前・後半それぞれ15分で、3分1セットマッチを数セット行い、各セット、フィールド選手が多いほうが勝ちとなります。前・後半の勝ち点合計で勝敗を決します。ボールが5個で最初は戸惑いますが、ボールの流れは縦1本、ルールはJDBAルールよりかなり簡素です。

初日、日本は8試合を消化。男子選手はMen、Mixの連戦で休みなし。深夜日付が変わるまでの熱戦を経て、2日目のマディソンスクエアガーデンでの試合権利を獲得。シングルボールゲームのデモも実施することができ、最良の結果となりました。2日目、マディソンでの招待枠Mixカテゴリー決勝戦は女子が1名少ないハンディ（5名対6名）の中、シンガポールを破り見事優勝に輝きました。WDA、ADF幹部とのコミュニケーション含め、全てのミッションを遂行完了。上々のNY遠征でした。誇りと自信に満ちあふれ、満身創痍、精いっぱい戦い抜いた代表選手8名に感謝したいと思います。

そして未来へ。2019年以降の展望

世界標準はマルチボール（5ボール）ゲームです。日本のドッジボール文化を決して否定するものではありませんが、シングルボール競技は現実的には極東数カ国のみで行われているゲームです。アジア圏外と交流するには、マルチの導入が不可欠なのです。

D-1登録維持も苦しい減少傾向が懸念される中、マルチ＆海外に目を向けることに否定的な意見も確かにあるでしょう。しかしながら、必ず問われるのが国際対応の状況であり、何かしらの答えを持ち合わせるべきだと考えます。従来のアジアカップ4カ国の国際交流もこの先の進展性に疑問が残ります。5ボール競技の普及は「新種目の追加」と捉えていただきたい。停滞が拡大する現在の国内ドッジ事情。これらを打破する劇薬となり得る可能性を秘めていると感じる昨今です。

日本人にはシングルボールで培われた基本が備わっており、俊敏性とも相まって明確な強化により、世界一を取れる可能性が極めて高いと実感しました。また選手のみならず審判員も、JDBAルールで磨かれた技量を持ってすれば、国際舞台で主体性を発揮できる地位を築くことが可能です。

いよいよオリンピック参画を語るに当たり

極東の一部の国々が行動を起こして一から採用を目指すより、既存団体のWDAが既に採用に向けて具体的に行動を起こしていること、WDA会長にシングルボールゲームを正式ドッジボール種目と認めていただいている現状を鑑み、シングルボールを新たな「種目」としてWDAに追加することによってアジア諸国でのドッジボール競技人口を取り込み、世界全体の競技人口アップを推して正式採用の一翼を担う方向に向かうのがより現実的です。課題は多々あるものの、「進むも覚悟、引くも覚悟」。WDA加盟に向けてJDBAはかじを切っていきます！

「2018 Dodgeball World Cup」に参加

世界のドッジボール・マルチボールを体感

日本代表総監督 吉田 隼也

世界のドッジボールはマルチが主流。アメリカやヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアと世界各地で行われています。こちらは主に大人のドッジボールで、WDAではジュニア世代への普及やジュニアから継続するシステムづくりが課題。日本のシングルボールは逆で、小学生をメインターゲットとして始まり、シニア世代に継続する流れが現在の傾向でしょう。

マルチでもキャッチの価値は高く、キャッチ成功は味方を復帰させ、相手を1人アウトにします。日本でいうと、外野から当てて内野に復帰するようなもの。そのため日本のドッジボール技術は世界でも十分通用しました。マルチならではの技は、ボールでのブロックや投げながら次の動きに切り替えるなどの点。プレイ中も「これは日本のあの選手がやったらうまくやるだろうな」と日本の選手を当てはめ強い日本をイメージすることで、一層期待が持てました。

国ごとのカラーもはっきりしていて、ヨーロッパ諸国は「アスリート軍団」。組織化され身体も鍛えた「これぞ代表チーム！」が多く、戦略も緻密です。ボールが飛び交う中でもボール保持数をしっかり把握し、攻守どころを的確に判断。アメリカは、まさに「アベンジャーズ」。個性的な選手たちがスペクタクルに攻める、エンターテインメント性あふれるドッジボールでした。そしてオーストラリアは「本当にみんな大きかった（笑）」。190cmクラスの大型選手がゴロゴロいました。

アジアは香港、シンガポールなど、手堅さと俊敏性で勝負している印象。中でも今回世界2位のマレーシアが一つ抜け、アジアの特徴に戦略性と緻密さ、ダイナミックさを加えたアジア唯一のアスリートチームです。代表を応援するスポンサーも付いており、振る舞いに自信と誇りを感じました。

日本はまず2019年、マレーシアやオーストラリアといったアジアのライバルに対し、俊敏さと判断力、そしてキャッチをはじめとするシングルボールで鍛えた確かな基本技術を発揮し、アジアのトップを目指して戦いたいと思います。そして、WDAに加盟し、シングルボールをプレイしたことがない国々にも私たちのドッジボールを伝えます。シングルボールをプレイするヨーロッパやアメリカがどんなチームとなるか期待し、引き続き頑張っていきたいと思います。

ウエア提供：ミズノ株式会社

「第4回アジアカップ」を戦って

Over 13 男子日本代表キャプテン
笠松 順

まず、日頃から日本代表活動に多大なご支援を頂いているDJBFの皆さま、応援してくださる皆さまに深く感謝申し上げます。私たちは「第4回アジアカップ」で優勝して4連覇を果たし、期待に応えることができたことを喜びつつ、安堵もしています。

優勝までの道のりは決して簡単ではなく、海外開催という独特の雰囲気の中、自分たちのプレイがなかなかできない場面もあり、アウェーの洗礼を受けました。しかし、今大会は代表歴が長い選手も多く、どのような環境でも地に足を着けたプレイができたことが勝因といえます。私自身は、主将として勝つためにチームを鼓舞するだけでなく、代表合宿で確認し合ったことを着々と作戦につなげていきました。チーム一丸となることが大切、と改めて感じました。

今後はこの経験を生かし、ドッジボールの普及だけでなく競技としての価値をより高めていきます。今後も引き続き応援のほどよろしくお願いします。

Over 13 女子日本代表キャプテン
谷村 有紀

今回の女子チームは井上新監督を迎え、選手もほぼ半数が入れ替わりました。合宿を経てもなお、少ない時間の中でのコミュニケーションやプレイ連携に苦労はありましたが、監督の指導を共通認識とし、おのおの練習を重ねてきました。

相手国は日本チームをよく研究し、パスカットやサイド攻撃など攻守のバリエーションが増えていたのが印象的でした。普段と違う緊張感の中、一度のミスの後なかなか切り替えられない場面もありました。しかし、そんなときも支え合えるのがチームであり、ドッジボールの良いところだと思います。

4連覇という結果を残せたのも、ドッジボール協会をはじめ、現地でもお力添えを頂いたJDBF・審判団の皆さま、関係者の皆さま、そして応援してくださった方々のおかげです。ありがとうございました。これからも応援よろしくお願いします。

Under 12 女子代表チーム 監督
西 秋雄

「第4回アジアカップ」出場に当たり、まず現在の中学1年生が抜けた後のメンバー集めからのスタート。日の丸を背負うという意識付け、何より4連覇がかかるプレッシャーの中で、不慣れな韓国ボールの扱いなど、どう戦うべきかを考えました。また、隣国とはいえ、初の海外試合。移動時間や食事面などの心配もありましたが、体調を崩すことなく試合に臨め、見事優勝することができました。

憧れのO-13日本代表選手に声を掛けていただき、一緒に練習や応援ができたことに、子どもたちだけでなく私たち指導者や保護者も感謝しています。また、表彰や写真撮影などかなり長い閉会式の間もしっかり前を見て素晴らしい態度で参加でき、プレイだけでなく日本代表としての自覚、成長を感じました。子どもたちには今回の経験を生かし、ドッジボーラーとしても人としても、より一層の成長を願います。最後に、県内外からたくさんの応援を頂き、ありがとうございました。

アジアカップ日本代表集合写真

開会式で和気あいあいのO-13女子代表チームとU-12マネージャー

U-12女子代表チーム

O-13男子代表チーム集合写真